

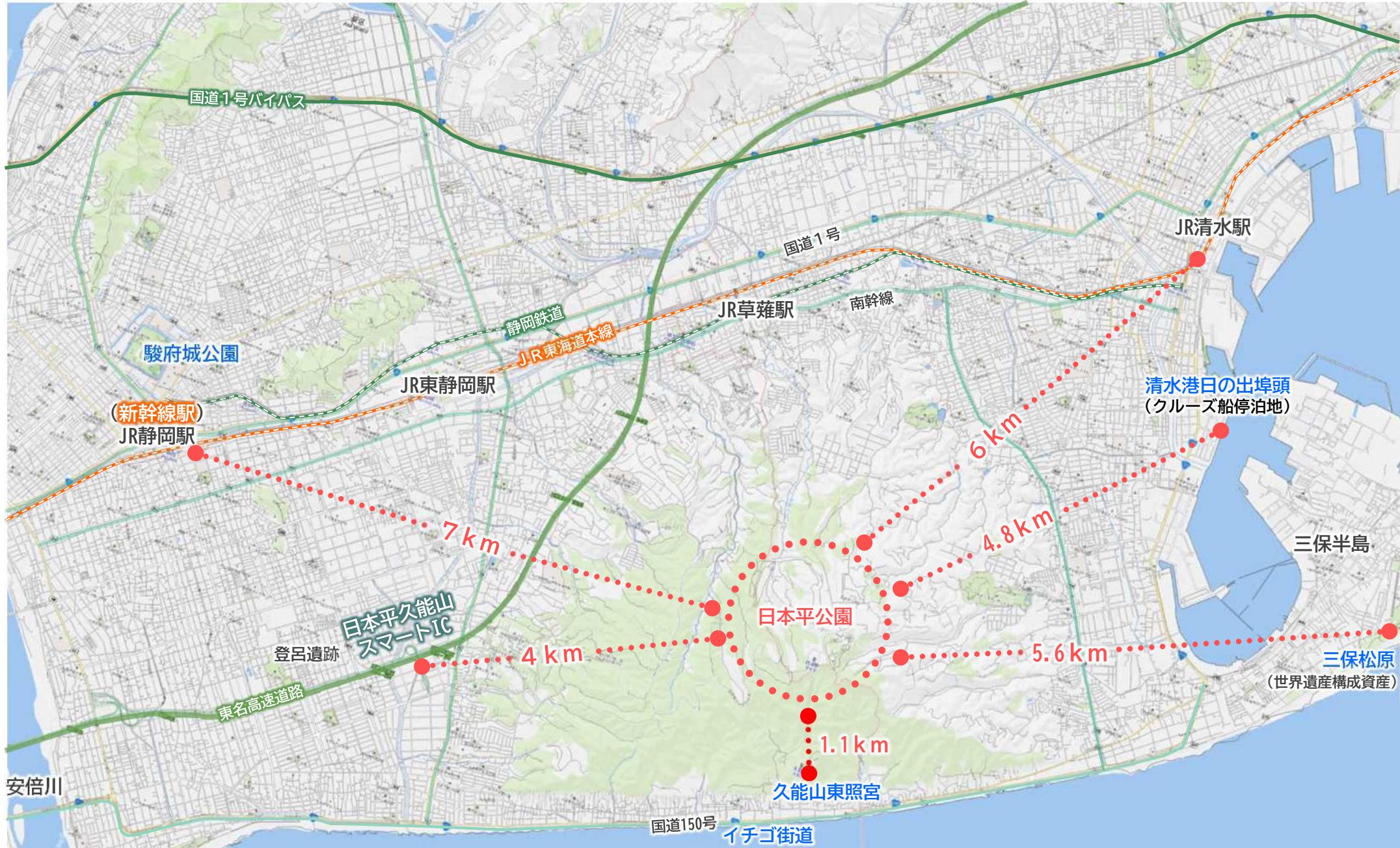
令和7年度 第1回 静岡市都市公園審議会 資料

『風景美術館＝日本平公園』 基本計画の改定について



令和7年12月24日 静岡市公園建設管理課

日本平公園の位置



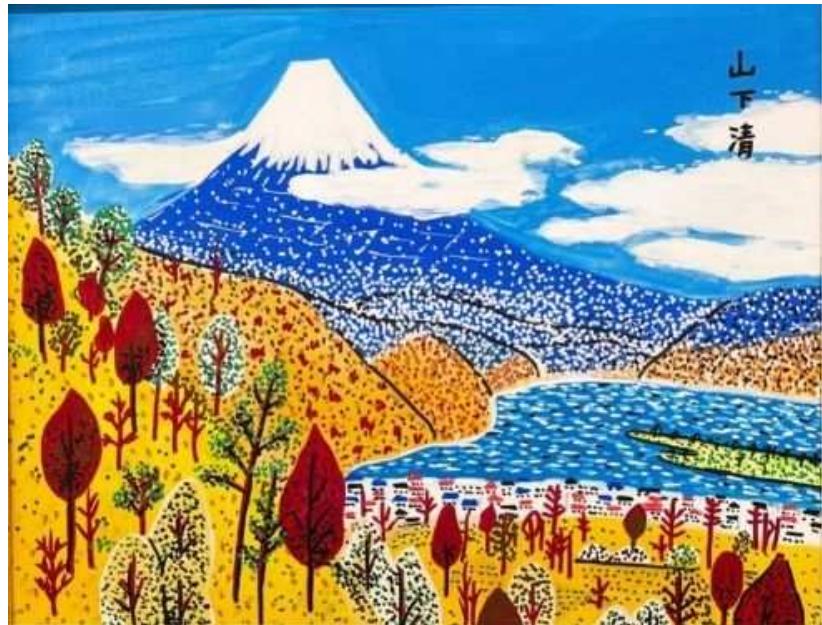
静岡市を代表する風景として定着している
日本平から望む茶畑越しの富士山と清水港の絶景



日本平公園からの風景と構図がそっくりな名画



歌川豊国　名勝八景三保と雁



山下清



歌川広重　東海道五十三次　江尻



歌川広重　三保



絹本著色　富士曼陀羅図

■日本平の観光交流客数（千人）

1977	2002	2010	2013	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
S52	H14	H22	H25	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
2,796	1,231	1,405	1,925	1,485	1,890	1,995	1,495	1,485	1,727	1,631	1,682

※Peak ※Min ※世界遺産 ← コロナ禍 → ※大河ドラマ
※夢テラスopen11/3

夢テラス来場者	644	872	334	330	442	520	475
---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

■R6市内観光スポットの観光交流客数（公表許可のみ）

順位	属性	名称	客数(人)
1	食・グルメ	エスパルスドリームプラザ	3,541,000
2	自然・絶景	日本平	1,682,346
5	スポーツ・アクティビティ	静岡県草薙総合運動場	855,963
9	自然・絶景	三保松原	518,231
11	コンベンション・交流イベント	ツインメッセ(イベント)	480,183
12	自然・絶景	日本平夢テラス	474,677
13	文化・歴史	久能山東照宮	422,115
16		日本平動物園	397,678
17	アート・芸術・博物館	清水文化会館マリナート	375,700
19	スポーツ・アクティビティ	日本平運動公園球技場(プロサッカー観戦)	329,758

■清水港の外国クルーズ船寄港回数										R6：全国6位（本州1位）	
2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024		
H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6		
11	18	38	33	41	7	9	13	57	87		

■日本平公園 居住地別来訪者比率 (日本平夢テラス来館者：令和5年度調べ)

※Wi-Fi接続履歴受信データ

市内	県内市外	県外	海外
20	15	64	1%

■日本平公園 外国人来訪者国別比率 (令和5年11月6日～令和5年11月30日調べ)

※Wi-Fi接続履歴受信データ

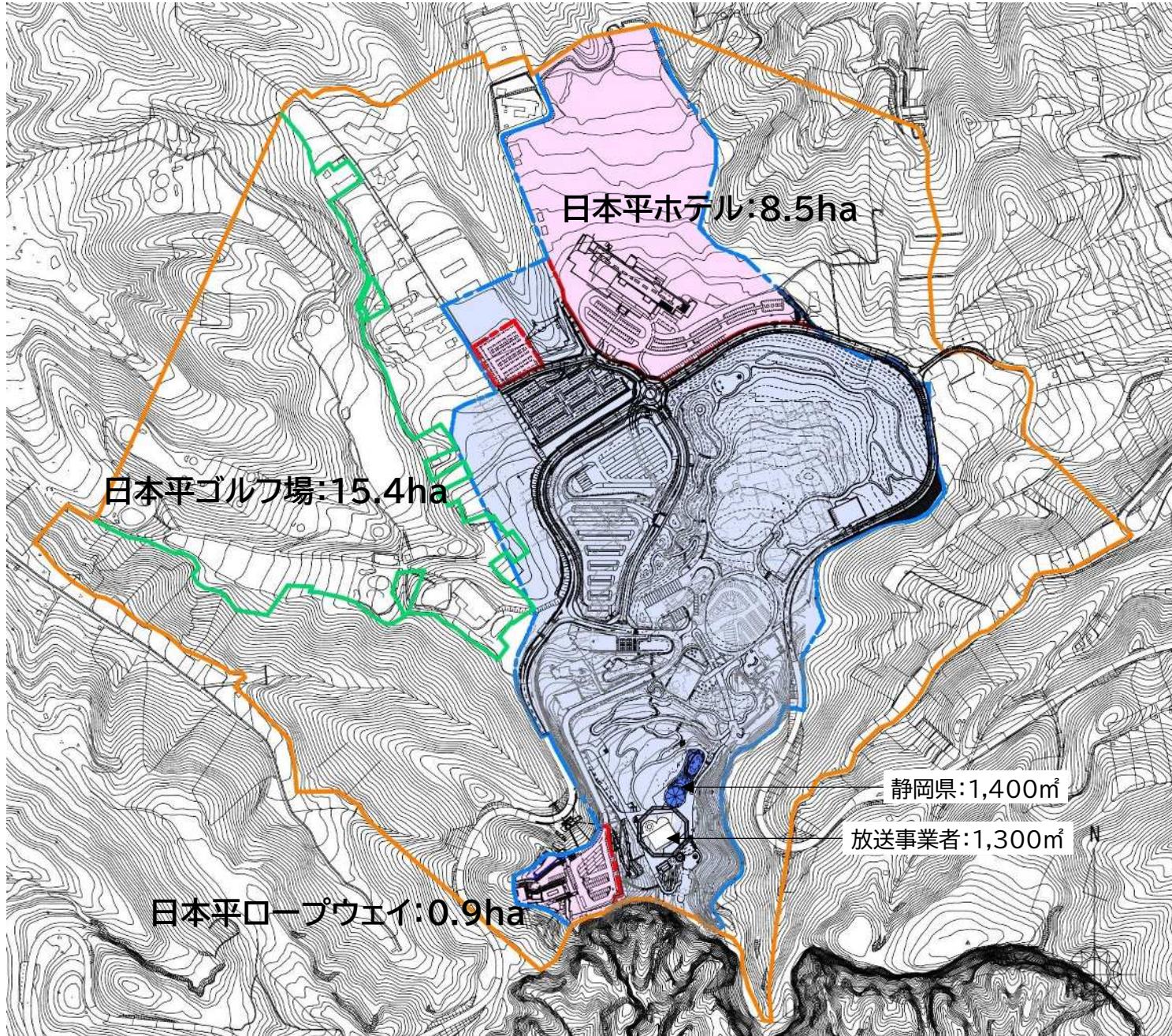
中華人民共和国	大韓民国	台湾	シンガポール共和国	アメリカ合衆国	英国	その他
27	20	18	11	6	4	14%

出典：しづおかWELL-BE（静岡県広聴広報課）

日本平公園に係わるこれまでの経緯

年	西暦	ことがら	実施者	概要
大正15	1926	徳富蘇峰が日本平登頂	徳富蘇峰	「実に天下第一と申し支えあるまいと思う」
昭和2	1927	日本百景 平原の部入賞	大阪毎日・東京日日	
昭和7	1932	名勝日本平仮指定(史蹟天然紀念物保存法第1条に基づく)		その後新法改正により本指定となる
昭和8	1933	旧都市計画法に基づく風致地区指定		旧法制定直後の「風致地区」が、史跡名勝天然記念物の補足的予防手段と考えられていた
昭和9	1934	日本平登山道路開通(昭和5年から掘削開始)	清水市	観光開発のきっかけ、旧道開通
昭和10	1935	清水市が徳富蘇峰に委嘱し展望4か所に石碑建立	清水市	吟望台、鐘秀台、超然台(有度山山頂)、望嶽台
昭和12	1937	日本平公園 都市計画決定	静岡県	
昭和25	1950	日本観光地百選 平原の部1位	毎日新聞	石碑あり(県営駐車場内)
昭和26	1951	日本平県立公園 指定	静岡県	県自然公園条例の前身 記念切手「観光地百選シリーズ“日本平”」発行
昭和28	1953	静岡県による日本平山頂の土地買い上げ、公園整備実施	静岡県	駐車場、公衆トイレ、芝生広場
昭和32	1957	ロープウェイ建設	静岡鉄道	昭和30年:清水屋
昭和32	1957	6月30日仮指定失効(文化財保護法附則による)、7月1日文化財保護法第70条1項による仮指定		川崎屋、野鳥の家
昭和34	1959	名勝指定「名勝日本平」		
昭和36	1961	静岡県自然公園条例に基づく「日本平県立自然公園」指定	静岡県	日本平ゴルフクラブ開業
昭和37	1962	旧文化財保護法第71条の2第1項に基づき、旧清水市が管理団体に指定		
昭和39	1964	日本平ホテル本館建設	日本平ホテル	日本平パークセンター、日本平美術館
昭和39	1964	日本平パークウェイ供用開始(有料道路)	静岡県道路公社	静岡側 昭和42年:お茶会館
昭和47	1972	日本平県立自然公園運営協議会発足		
昭和47	1972	清水日本平パークウェイ開通	静岡県道路公社	清水側
昭和54	1979	日本観光百選コンクール 第1位	週刊読売	石碑あり(山頂園路脇) 昭和52年 観光入れ込み客数ピーク:280万人
昭和58	1983	名勝日本平保存管理計画策定		
昭和58	1983	静岡県教育委員会に権限委任		
平成元	1989	有度山総合整備計画-基本計画-策定(S61-63)	旧静岡市・清水市・静岡県	有度山整備の基本となっている計画
平成4	1992	日本平公園基本構想・基本計画	静岡県	
平成15	2003	日本平山頂部展望施設等整備調査	旧静岡市・清水市	旧静岡市と旧清水市が合併、新静岡市が日本平公園を整備することが決定
平成15	2003	県営駐車場建設	静岡県	清水屋改築(月日星) 平成14年 観光入れ込み客数の底:120万人
平成16	2004	日本平パークウェイ無料開放(市道池田日本平線)	静岡市	
平成17	2005	日本平山頂部等活用基本計画	静岡市	静岡市が政令指定都市に移行
平成17	2005	地上波デジタル塔建設(電波塔統合)	6社	
平成18	2006	日本平公園基本構想	静岡市	
平成19	2007	名称変更「日本平・三保松原県立自然公園」		
平成20	2008	日本平公園基本計画策定	静岡市	
平成22	2010	社会総合交付金 事業認可 久能山東照宮(社殿)国宝指定	静岡市	平成22年 事業着手
平成24	2012	日本平ホテル再築(リニューアルオープン)	日本平ホテル	特許事業(都市計画法第59条第4項) MINT機構制度利用、日建設計
平成25	2013	世界文化遺産「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」登録		三保松原
平成25	2013	公園供用開始	静岡市	
平成27	2015	基本計画改定(1回目)	静岡市	山頂施設整備に伴う
平成28	2016	日本夜景遺産 自然夜景遺産に認定 富士三大夜景に認定(2019)	(一社)夜景観光コンベンションビューロー	都市公園法改正(パークPFI制度ほか;2017)
平成30	2018	県シンボル施設建設(日本平夢テラス)	静岡県	隈研吾氏設計
平成30	2018	市展望回廊建設(日本平夢テラス)	静岡市	隈研吾氏設計 コロナ禍(2019~) 令和1年 観光入れ込み客数:200万人
令和3	2021	ロープウェイ駅舎「門前の恵みたいらぎ」再築	静岡鉄道	令和2年、3年 コロナ禍時の観光入れ込み客数:150万人/年
令和5	2023	基本計画改定(2回目) NHK大河ドラマ「どうする家康」放送	静岡市	園路変更等に伴う

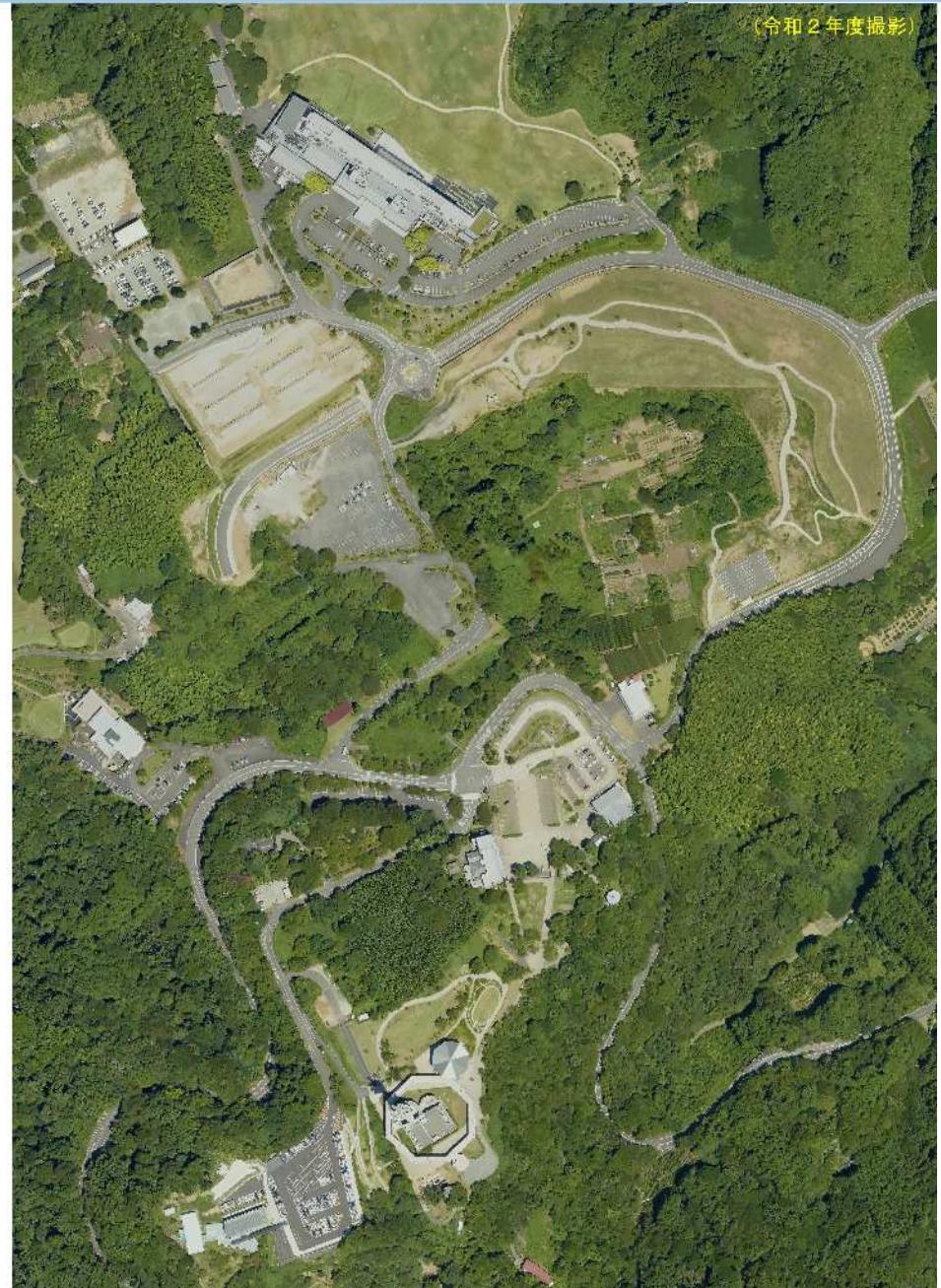
◆公園区域



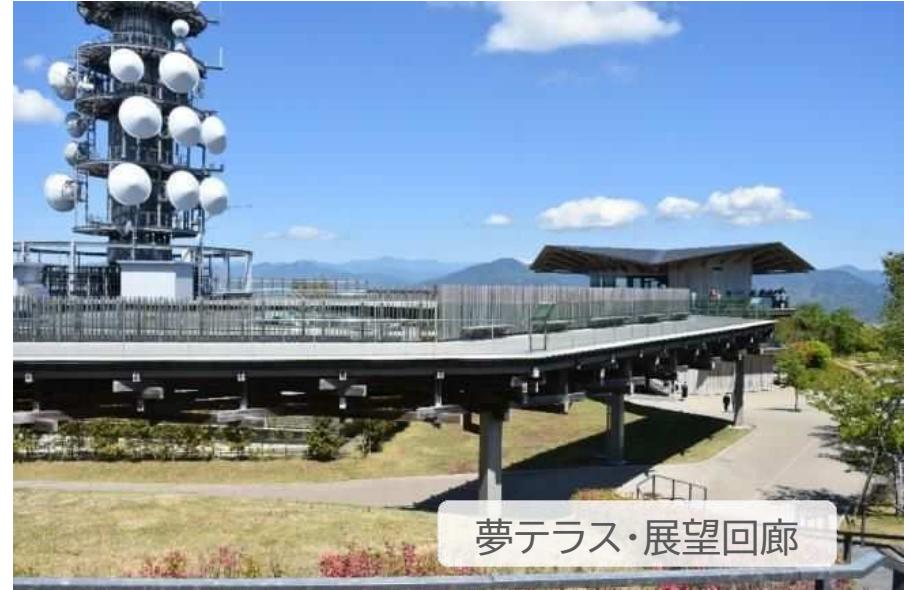
- 都市計画区域: 88.5ha
- 事業区域(公共): 23.5ha
- 事業区域(民間): 9.4ha
- 基本計画対象区域: 33.0ha
(放送事業者分を含む)

日本平公園の供用状況

【供用済み面積】 20.8ha／33.0ha (11.4ha／23.5ha)



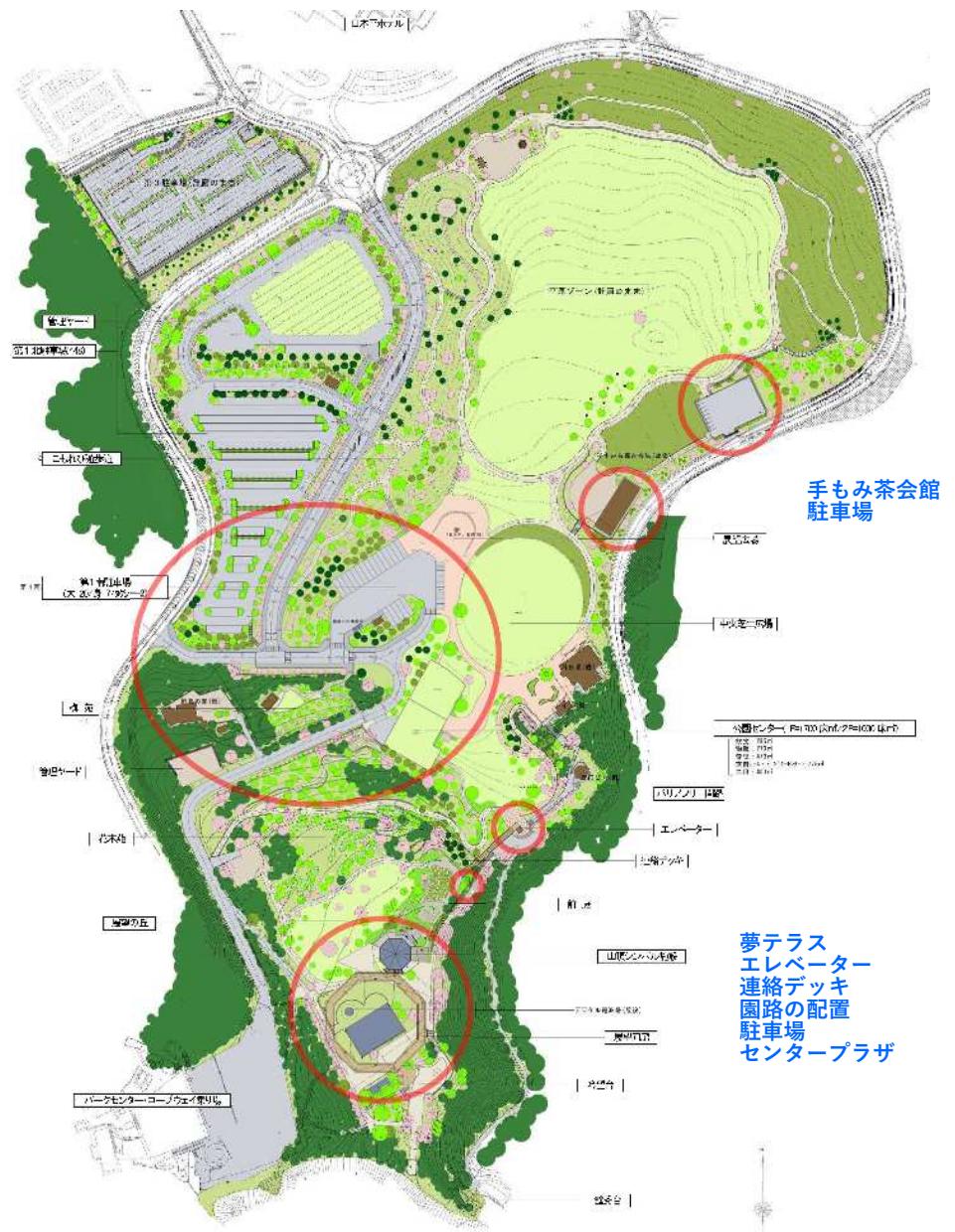
◆整備進捗状況



当初基本計画図（H19）



改定基本計画図（H28）



改定基本計画図（R4）



改定基本計画図（現在検討中）



改定のねらい…「観光」による「地域」づくりに貢献する公園

現計画策定（H19）から**16年経過** → 時代に即した「風景美術館＝日本平」計画を再構築
(この間、日本平公園を取り巻く周辺状況や社会状況、法制度が大きく変化している)

「名勝 日本平」の価値の最大化

時代に即した計画 → 市民や関係者の「納得」と「共感」が得られる

「人」、「知」が集まる

「資金」が流れ込む

好循環

エリアの価値が高まる

地域振興、地域課題の解決

(現計画) 観光交流拠点となる公園…観光地づくり

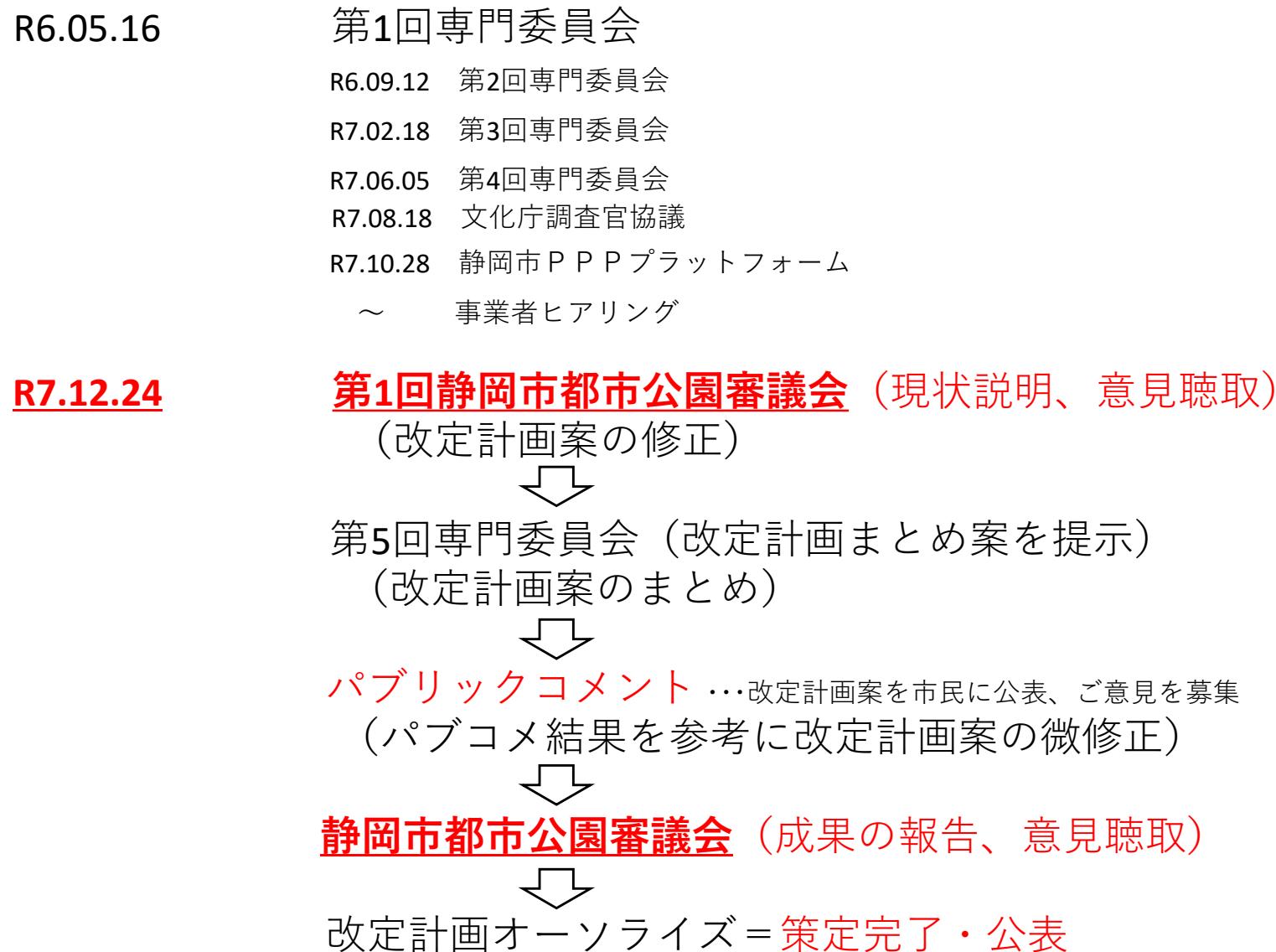


(改定計画) 地域の魅力を高め、地域のサステナビリティに貢献する公園…観光地域づくり

静岡市日本平公園基本計画改定専門委員会名簿

氏名	所属・役職等
(いがらしまこと) 五十嵐 誠	一般社団法人日本造園建設業協会 相談役
(いけがやのりよし) 池谷 則義	日本平久能山観光協会 会長
(せきたかお) 関 貴夫	静岡鉄道株式会社日本平ロープウェイ営業所 副所長
(いしやまちよ) 石山 千代	國學院大學観光学部観光まちづくり学科 准教授
(おのりょうへい) 小野 良平	立教大学観光学部観光学科 教授
(かんたけしんいち) 寒竹 伸一	静岡文化芸術大学 名誉教授
(ひらまつれいじ) 平松 玲治	一般財団法人公園財団 開発研究部長
(ふなとしゅういち) 船戸 修一	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科 教授
(もりかわたかゆき) 森川 高行	名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所 特任教授
(もりたあきお) 森田 明雄	静岡大学農学部応用生命学科 教授

■日本平公園改定基本計画策定完了までの手続き



■日本平公園整備事業が目指す姿

地域課題（＝観光客の消費単価が低い）の解決

消費の場、消費の機会を提供する公園づくり

「投資が集まる」→「魅力が向上し来訪者が増える」→
「エリアの価値が高まる」→「投資が集まる」 の好循環

“稼ぐ力”を備えたサステナブルな公園経営

PPP導入で訴求力のあるモノ、コトを造成
名勝日本平の価値と魅力を最大化＝絶景のブランディング

○第4次 静岡市総合計画「観光・交流分野」 KPI：1人あたり観光消費額

日帰り客：3,377円（2024末）→未定；200%増？（2030末）

宿泊客：24,146円（2024末）→未定；30%増？（2030末）

《名勝日本平の持続的保全》

▼
適正な活用

▼
《名勝日本平の価値の最大化に資する公園づくり》
《地域課題の解決に資する公園づくり》

- 地域への投資を呼び込む…適切な目的・整備、取り組みの連坦（好循環）、パークマネジメント
- 魅力、インセンティブの“見える化”…静岡市の市場での評価が上がる→投資家に選ばれ資金が流れ込む好循環
- 日本平のポテンシャルを活かしきる魅力向上で観光客、滞在時間が増加 → 経済効果
- アクセスのあり方…パーク＆ライド、自動運転、次世代モビリティ、デマンド、駐車場
- 景観の向上、保全の仕組みづくり
- 都市計画決定区域の検証
- 市民のWell-being向上

《現基本計画の範囲の考え方》

「日本平公園基本計画（H19）」にて、都市計画決定範囲88.5haのうち、『利活用を主目的とする～比較的平坦な区域33.0haについて基本計画を行う』とした。

（残範囲についてはゾーニングや方針を設定）

同H19年度に「日本平公園基本設計その1」にて、比較的平坦な区域（33.0ha）のうち、平原ゾーン（8.5ha）を対象とし、具体整備に着手。その後「日本平公園基本設計（H21）」にて駐車場や観富の丘ゾーン（山頂部）など33.0ha内の設計を行った。これにより、都決範囲88.5haのうち33.0haの具体的整備を行う方針が定まり、現在に至る。

下記事項の見直し、検証を行う

- ①交通計画（アクセス手段、駐車場規模 等）
- ②施設計画、民活導入計画（整備、管理運営 等）
- ③維持管理方針（芝生広場、植栽地 等）
- ④観光計画との連携、地域振興
- ⑤茶畑景観（保全、営農支援 等）
- ⑥公園全体のランドスケープ

上記を見直すことにより、公園区域全体が基本構想で定めるコンセプト「風景美術館＝日本平公園」を達成。

◆基本計画の方向性

基本的な方向性

○基本構成

- ・風景に特化した高質の静的空間を形成。
- ・観光基本計画を踏まえた「体験コンテンツの充実」に向けた様々な動的アクティビティの導入。
- ・公園における自然環境の多様な機能を活かし、グリーンインフラとして、自然に接し、心身の安らぎや学び、遊び等の場として積極的に活用。

○サステナブル

- ・公園やグリーンインフラによって「自然資本」を回復させ、持続可能な社会を構築。
- ・エコツーリズム、サステナブルツーリズム等の観光需要の変化に対応する公園機能の向上。
- ・持続可能な公園経営を促進するため、公園利用における消費額の拡大、インバウンドの誘客促進等による運営管理を安定化。

○ウエルビーイング

- ・グリーンインフラ機能の向上や、心豊かな生活を支える居心地のよい交流・滞在空間の強化により、地域社会の魅力度や幸福度の向上、観光・集客の競争力の強化に貢献。
- ・全ての子どもの健やかな成長、安全で安心して過ごすことのできる多様な体験活動や外遊びの機会の提供。

○公園利用の活性化

- ・一年を通じて市民の憩い、レクリエーションや市民交流の非日常的な活動が楽しめる場として地域活性化の中核を担う公園づくり
- ・観光需要の拡大に向け、静岡市の特産である美食・絶景・歴史をテーマとしたアクティビティによる質の高い感動体験ができる公園づくり。
- ・公園区域を最大限に活用するため、パークアンドライド等の新たな交通システムの導入、将来的なクルマ社会に応じた駐車場規模の検証、三保松原等の周辺観光地からの回遊性を進展させる新たな交通手段等の導入。
- ・集客力を高めるために、カジュアル層からエグゼクティブ層までの幅広い利用ニーズに対応する高付加価値な宿泊施設や飲食施設、貴重な体験施設やプログラム等を提供。

基本的な取り組み方針

取り組み方針①

目の前は日本一の眺望
<絶景>

○「季節が織りなす風景」

富士山を主景とした四周の風景と、園内の木々や草花が織りなす季節の移り変わりが、日本平の壮大な風景を創出し、いつ来ても感動の広がるビューポイントやシークエンスを設定

○「光が醸し出す風景」

1日の時間の中で山容を明瞭に見せる朝の風景、駿河湾から立ち上るもやで霞む日中の風景、日が沈む夕照、市街地の夜景、夜空の星の輝き等の光の風景を堪能する機能を点在させるととも、「日本平夜市」やライトアップイベントによって夜間のアクティビティを提供

取り組み方針②

固有の歴史資源と遭遇
<歴史>

○「歴史が紡ぐ風景」

ヤマトタケルノミコトから久能寺の時代を経て、日本平は家康公の東照宮に続く、1,400年余りの悠久の歴史をもつ有度山において、古くから多くの人々の信仰を集め、古の名画に残るかけがえのない聖地としての文化的風景を形成

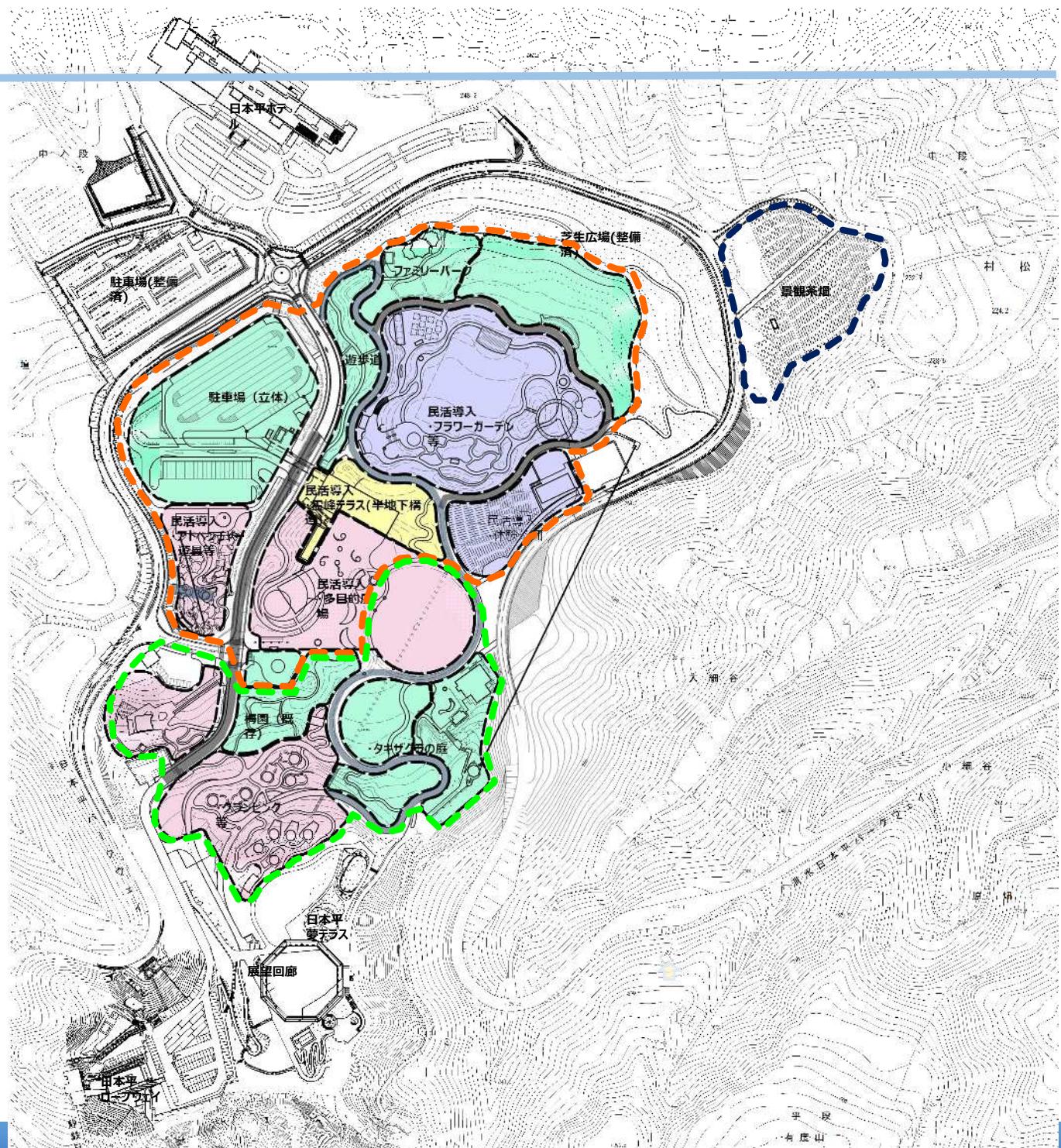
取り組み方針③

憩いと自然体験を提供
<アクティビティ>

○「人が奏でる風景」

子どもたちの歡声、園内で催されるイベントや音楽の調べ、公園は人々が利用することで活気のある景観が生まれる。ウェルビーイングなライフスタイルに寄与する憩いと交流の風景を創出

◆基本計画案



前庭導入施設案・イメージ

【施設概要・イメージ】

① 大芝生広場

エリア最下部（北東端）の整備済み芝生広場の延長。富士山を主景に三保半島や清水市街地、清水港、伊豆半島が遠望できる開放的な園地。本公園の枢要なビューポイントとして位置づけ。



大芝生広場現況



展望デッキ（加工）



ハンモックベンチ

② こもれびの遊歩道

アプローチ道路沿いのバリアフリー対応歩行者園路。富士山の眺望を阻害しない敷地にあたるため、雑木や花木等の疎林地を形成し、アプローチ道路からの公園エントランスとしての修景地として活用。



③ ファミリーパーク

大芝生広場の北西端の一隅を位置とした、主に子ども連れの市民利用に対応したレクリエーション施設。ピクニック園地や、日陰施設を併設した幼児遊具コーナー等で構成。



ピクニック園地（ミッドタウン東京）



日除け付き幼児遊具コーナー

④ 体験茶畠

現在の手もみ茶保存会館のリニューアル。現況の茶畠を極力、残す配置・形態とする。但し、現在の会館建物の老朽化と眺望の阻害要因となっているため、移設の上で改築。

前庭導入施設案・イメージ

② フラワーガーデン

大芝生広場から連続する上側（南西側）の緩傾斜地を園路で囲み、広大な敷地を活かした宿根草やグラス類を主体とするナチュラルガーデンや、野草が混在するくさっぱら、ツツジやサクラなどの花木等から成る草花の庭園。富士山の前景としてはばかりでなく、富士山が見えない時でも楽しめる散策園地として整備。

一部にバーベキューコーナーを設けるなど、レクリエーションメニューに幅を持たせる。高い維持管理レベルを保つため、季節別園地有料・閉鎖管理を想定。



富士山の前景となる花畠



くさっぱらでの野外音楽フェス



スカイウォーク(お台場海浜公園)



ナチュラルボーダーガーデン



BBQコーナー



くさっぱら外周のグラスガーデン



富士山とキャラクターモニュメント



さくら山



つつじ園(山のホテル)

中庭導入施設案・イメージ

【施設概要・イメージ】

① 霊峰テラス（旧公園センター）

本公園の複合サービス機能を担うセンター建築施設。富士山が見えない時も利用できる映像展示（たとえば日本平の歴史や静岡市の風景地の紹介等（絶景映像テラス））や公園のビジターセンター機能、飲食・物販、賓客を接遇するゲストルーム、公園管理事務所等の利用を想定。富士山方向に開かれた大窓や外部広場と連続した屋上部を利用した展望テラスを配置。

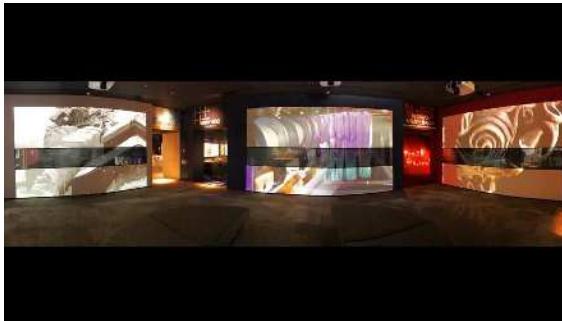
エントランス広場はざんだ駐車場からの直近のアプローチ道路沿いに配置し、アプローチ道路とセンタープラザの比高差を解消する多層構造とすることにより、建物内のエレベーター やエスカレータによりバリアフリー経路を確保。



大窓からの富士山の景（日本平ホテル）



ガーデンレストラン（目黒雅叙園東京）



映像展示（十日町市博物館）



ミニシアター



デジタルアート展(渋谷ヒカリエ)

② センター広場

靈峰テラス屋上の展望テラスにつながる中央広場。日本平夜市や梅まつりなどの様々なイベントや野外コンサート等の受け皿となる芝生広場（中央芝生広場）と、キッチンカーなどが置ける舗装広場（センタープラザ）から構成。



日本平夜市



中野セントラルパーク

中庭導入施設案・イメージ

③ 民間施設誘導区域（施設例：アドベンチャー系遊具）

駐車場の立体化により残った駐車場南側の敷地に配置。樹林を活かしたツリーハウスや吊り橋、立体迷路、ネット遊具などを配置し、主に若年層の市民をターゲットとした有料施設として整備。



立体迷路（ハ景島シーパラダイス）



フォレストアドベンチャー米原

④ ジップライン

現在の東展望台（1階）と大芝生広場をつなぐ約250mの遊具施設。東展望台への誘客のための施設として位置づけ。



ジップライン

⑤ サクラテラス・タキザクラの庭

現在のハーブガーデン及び舗装広場を改修。パリアフリー園路が縦断する芝生の疎林園地。植栽種はサクラを中心とし、その一部（現在の位置で継続）のタキザクラは、その由来や周囲の修景によって富士山のビューポイントに位置付け。また、域内調達率を視点として、門前の茶屋町をモチーフとしたレンタル店舗（現在のガーデンマルシェ）を園路沿いに複数棟、配置。



左上：ガーデンマルシェ（日本平）
左下：タキザクラ（日本平）
右：足立区都市農業公園

⑥ 梅園

既設の梅園の拡張リニューアル。一部に野点のための園地を配置。

⑦ 和風庭園+茶屋

現在の「野鳥の家」の活用。「離れ」的静謐空間の特徴を活かし、梅園と景観的に連続する梅の和風庭園として活用。現在の建物は構造調査の上、リフォームして甘味処や和風レストラン等として活用。



日本平野鳥の家



梅を主木とした和風庭園（池上梅園）

⑧ 交通ターミナル

センター広場に隣接した位置に、バス駐車場や身障者対応駐車場、路線バス停留所、タクシー乗り場、自動二輪駐車場、駐輪場等の交通施設を集約して配置。併せて園内カート乗り場を併設。

奥庭導入施設案・イメージ

【施設概要・イメージ】

① 民間施設誘導区域（施設例：グランピング）

宿坊をモチーフとしたアウトドアをリゾート感覚で快適に楽しむキャンプスタイルの宿泊施設。夢テラス及び展望の丘北側の斜面地を利用。景観に配慮し、棟間をゆったり確保した配置のテント形式（概ね1区画100m²、8から10区画を想定）を基本とし、園地部も疎林や林床の花低木等によって宿泊地環境を整備。民間事業者の参画誘導施設として位置づけ。



舞子リゾート（新潟県南魚沼市）



グランピングスペースエンキャンプ（長野県塩尻市）

（4）その他

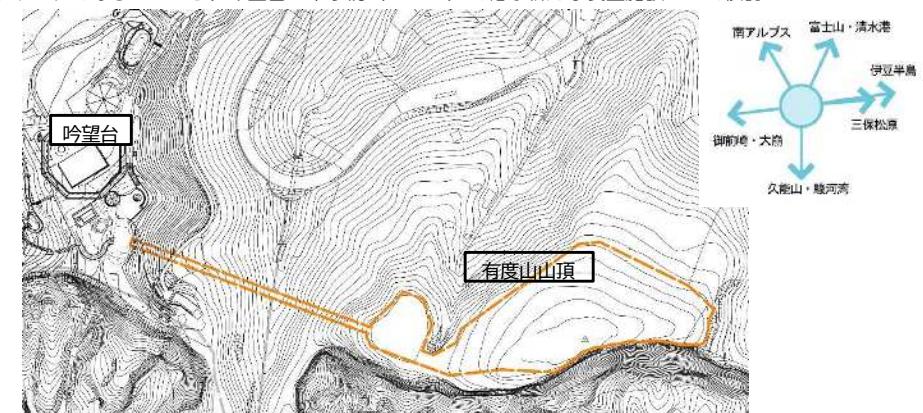
① 茶畠（全景の茶の間）

大芝生広場からアクセス道路をはさんで北東側に位置する茶畠（民間）は、富士見景観のビューポイントでもあることから、現在の位置、範囲で存続。現在の営農者が高齢のため廃業を希望しており、公園化に際しての維持管理手法が課題。



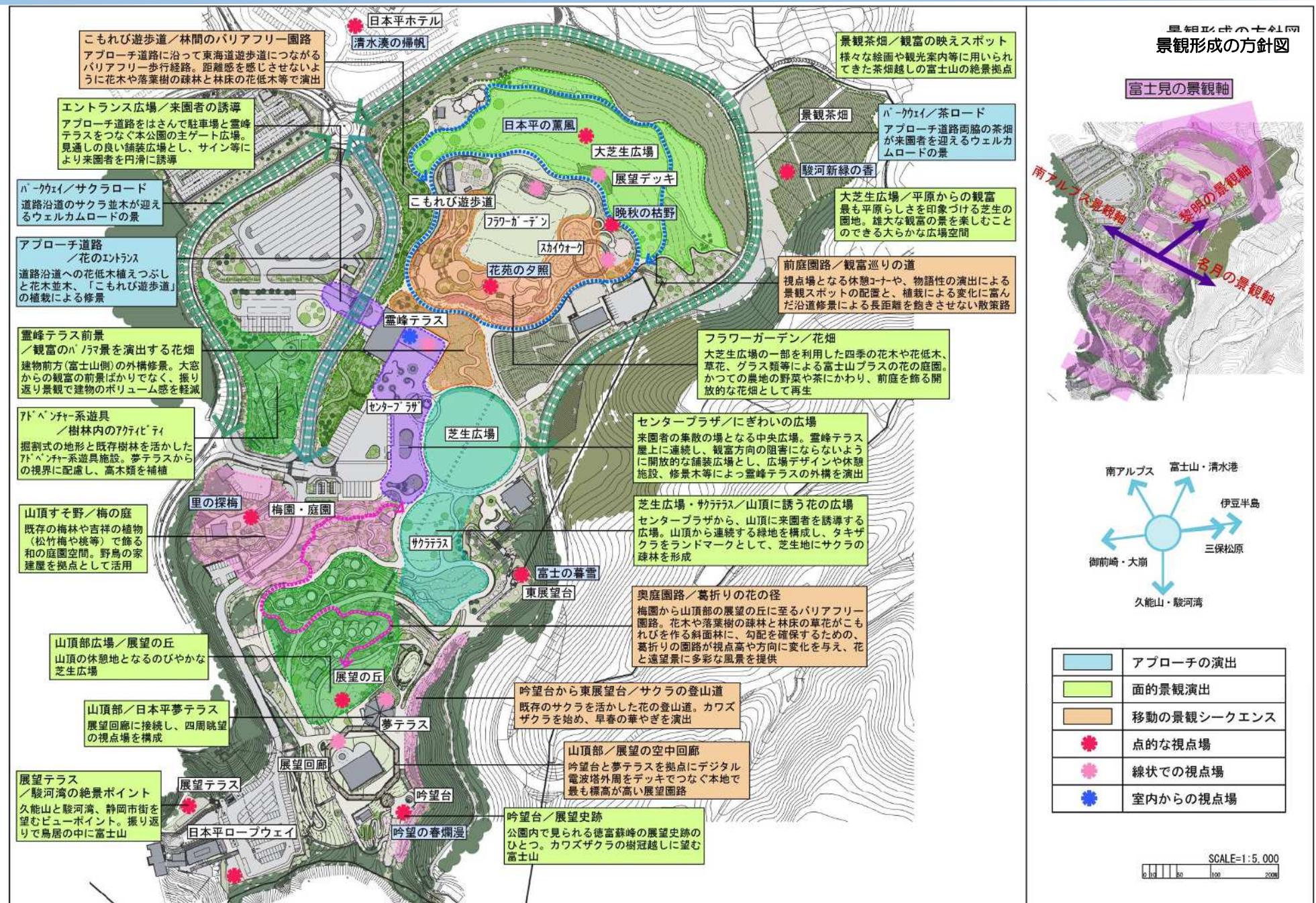
② 有度山山頂

今は都市計画区域外の有度山の山頂。吟望台と並ぶ蘇峰の展望史跡の1つ（超然台）で、四周眺望の絶景ポイントであることから、吟望台と吊り橋（300m）で結ぶ新たな展望施設として検討



三島スカイウォーク（400m）

現時点における基本計画案（景観形成の方針）



【日本平の景観的特徴】

眺望景観

- 富士山までの直線距離は約49km、仰角(見上げ角度)4度で、一般的山岳展望の理想的仰角(6度前後)より小さいものの、その不足を補うのが俯角(見下げ角度)範囲にある清水港一帯の俯景観で、目線より下の景観領域が確保されることにより、上下の視野の広がりが得られ、安定した景観を形成。
- 富士の裾野を隠すように張り出す幾重の低山稜が景観に奥行きを与える役割を果たすなど、近景、中景、遠景の組み合わせの秀逸さが絵画的風景を創出。
- 夜景や日の出の美しさも特筆すべき景観要素。
- 富士山が見える日数は年間約120日で、12、1月は20日前後富士山が望めるが、6月はほとんど見ることができないなど、天候に左右されやすい傾向。
- 富士山方向以外では、東は伊豆半島、西は焼津・御前崎方面、南は駿河湾、北は南アルプス南部まで見渡せる。一方で、突出した高所がないため同一地点からの四周眺望はできない。展望回廊（日本平夢テラス）がこれを補完。



「富士見の視点場＝富士見八景」・・・ストーリー性のある景観、視点場の設定



里の探梅(静岡の郷土と富士の景)

～百花の魁である早咲きの梅（探梅）を
求め逍遙する春告げの「里山の景」～



吟望の春爛漫(桜と富士の景)

～吟望台周辺に桜を補植し春爛漫に咲き
誇る“日本平富士”を象徴する「桜の景」～



駿河新緑の香(茶畠と富士の景)

～一番茶の収穫の時期 5月の茶の香りを
“駿河の香り”に見立て「茶の香の景」～



日本平の薰風(公園展望と富士の景)

～山頂部夢テラスから見渡す青景の香りを
吹きおくる初夏の清々しい「風の景」～



晩秋の枯野(神話と富士の景)

～平原を見立てた大芝生広場とグラスラン
ドスケープによる「草薙の伝説の景」～



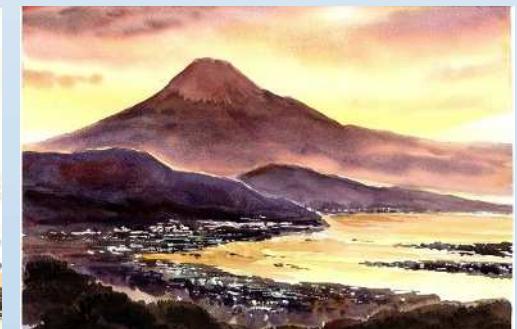
富士の暮雪(日本画と富士の景)

～日本画の原点ともいえる東展望台から見
る冬富士を構図とした「富士山図の景」～



花苑の夕照(林床の彩りと富士の景)

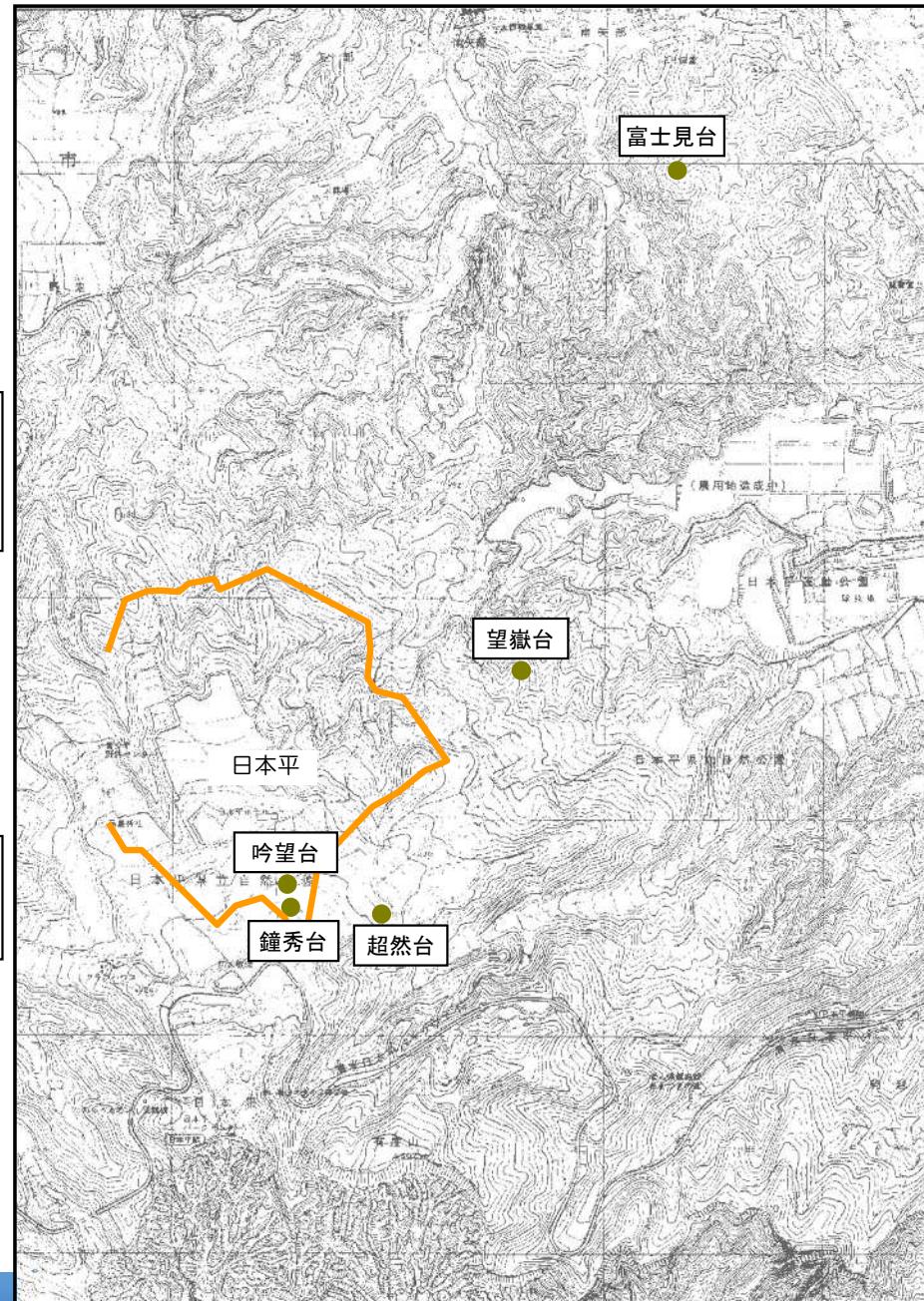
～夕日に染まった丘陵斜面地を花木や
山野草で修景した「彩りの景」～



清水湊の帰帆(清水港と富士の景)

～ホテルの芝生広場を前景に清水港の景を
借景として取り入れた「日本美港の景」～

徳富蘇峰が選定した展望台碑



富士見台
徳富蘇峰の碑

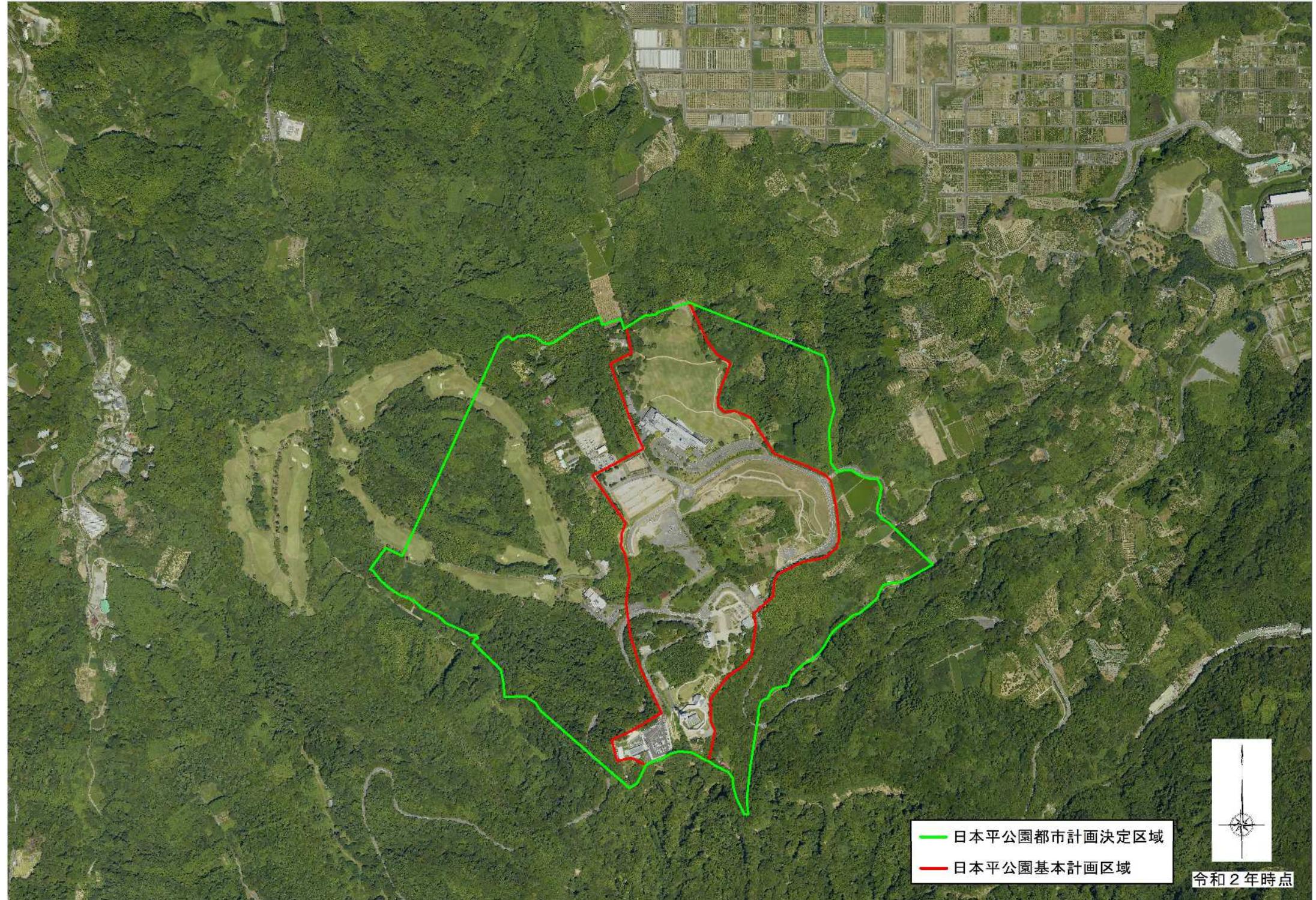


望嶽台
日本平から下った東斜面に舌状に突き出した台地上が選ばれた。登山道と接しており、遠くに富士山眼下に清水区市街地と清水港を望むことができる。



超然台
有度山山頂(307.2m)で、吟望台と超然台の三角形の一頂点。「四顧さえぎるものなき雄大な眺望は、正に超然台の名にふさわしい」と当時の新聞に掲載された。





令和2年時点

日本平公園の位置（主要アクセスルート）



